

講義名	生活文化事業概論		
科目区分	学部専門基礎		
担当教員	栗田 真樹		
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 3時限		
履修開始年次	1年生	単位数	2
		講義コード	23060

主題と概要

現代社会は「産業社会」とも呼ばれ、「産業」によって「社会」の一つの特徴を明らかにすることができる。労働することで生活の糧を得て生きていかなければならないことを考えれば、産業も労働も人間にとって重要な位置を占めるものである。また、今後、人びとの生活や行動、考え方の変化やニーズに基づいて、生活を豊かにするための新たな事業を創造しなければならない。この講義では、現代社会における産業と労働を中心として、産業社会としての現代社会の諸相を概観する。
「産業社会」を考えるための基礎的知識と分析のための考え方を修得することがこの講義の目的である。

到達目標

- ・現代社会における産業と人々の労働について理解する。
- ・興味関心のある産業の領域におけるビジネスモデルについて考えることができる。
- ・今後の社会と産業の関係、ならびに新しいビジネスモデルを提案することができる。

提出課題

授業内で不定期に課題を課すことがある。
学期の途中で、レポート試験を予定している。詳細は講義内で指示する。

評価の基準

平常点（講義内課題）、レポート、筆記試験により総合的に評価する。
 1. 授業中：講義内課題（不定期） 30%
 2. 中間期：レポート試験（理解度確認試験：記述式） 20%
 3. 期末期：筆記試験（マークシート式＋記述式） 50%
 その他、講義時の質問、指定の文献・メディアリストからの感想文、数種類の特別レポート（それぞれ提出は任意）等を加点対象とする。

履修にあたっての注意・助言他

「産業社会学」と「生活文化事業概論」を同時開講します。
 講義外のコミュニケーションの道具として、インターネット（ウェブ等）を活用していく予定である。URL等については、講義内で指示します。
 なお、講義中の私語、不必要な携帯電話、メール等は厳禁とします。このような場合は「講義妨害」であるので、他の履修者の権利を守るため退室してもらうことがありますので注意してください。
 また、参加型授業のためのClica(<https://www.digital-knowledge.co.jp/product/clica/>)を履修者のスマホ等で利用する予定にしています。学内アドレス、パスワードを確認しておいてください。利用できない人には別の方法をとります。

教科書

・ 特には指定しない。・

プリント資料及び参考文献

担当者作成のプリント資料を配布する場合がある。参考文献については適宜紹介、指示する。

授業計画

- 1 産業社会学のイントロダクション
- 2 社会学の基本的考え方 経済と社会、集団と組織
- 3 産業化の概念と定義、工業化・機械化
- 4 日本の産業化、サービス産業化、第三次産業の隆盛
- 5 脱物質主義と収斂理論
- 6 企業文化とコミュニティ
- 7 企業と労働、労働者の権利
- 8 グローバリゼーションと企業
- 9 多国籍企業と外国人労働者
- 10 産業社会と消費社会、消費者行動
- 11 地域と産業、地域ブランド
- 12 新しい産業と事業創造、ビジネスモデル
- 13 人びとのニーズと生活文化産業
- 14 多様化・融合する産業（第一次産業、第二次産業、第三次産業の融合）
- 15 まとめ 今後の産業と社会

予習・復習

この授業科目は2単位ですが、2単位に必要な学修総時間は90時間と決められています。90時間の内訳は授業で30時間（2時間×15回）、予習・復習で60時間（4時間×15回）です。
予習・復習、中間レポート試験、定期試験の準備等、授業時間外で60時間の学修を達成できるように主体的・積極的に取り組んでください。

備考

クリッカー（Respon等）を使用する可能性があります。ただし授業中の不必要な携帯・スマホの利用、私語など、授業態度の悪い人には退室を求めます。十分注意してください。